

多賀デザイン・カレッジ大滝キャンパス設立 大滝小学校「総合的な学習(1学期)」との連携

平成28年6月1日、滋賀県立大学が「地(知)の拠点整備事業」の一環として展開している「地域デザイン・カレッジ」が、多賀町にて「多賀デザイン・カレッジ 大滝キャンパス」として設立されました。地域のネットワークを強めるとともに、地域の課題を解決する人材育成の拠点です。

多賀デザイン・カレッジ 大滝キャンパス

●活動内容：多賀町大滝地域を対象とし、下記項目などに取り組みます。

- (1) 特色ある教育環境づくりおよび地域人材の育成に関する事業
- (2) 地域資源を活かした／地域課題を解決する産業創造に関する事業
- (3) 情報発信に関する事業
- (4) その他「多賀デザイン・カレッジ 大滝キャンパス」の目的を達成するために必要な事業

●活動拠点：多賀町立大滝小学校
(滋賀県犬上郡多賀町川相 568)

●平成28年度事業 運営委員構成団体

- ・大滝小学校
- ・多賀町教育委員会事務局
- ・多賀町地域整備課
- ・多賀町企画課
- ・滋賀県立大学地域共生センター

設立にあたり、多賀町長 久保久良様、大滝小学校長 井上尚世様と本学学長 大田啓一から記者発表を行い、久保町長が代表して「多賀デザイン・カレッジ 大滝キャンパス」設立宣言をいたしました。

「多賀デザイン・カレッジ 大滝キャンパス」では、大滝地域の人口減少に歯止めをかけ、山間地域に子育て世代等呼び込むことを目標に、大滝小学校を核とした特色ある教育環境づくりに取り組みます。



同日、多賀町立大滝小学校に場所を移し、本学地域共生センター准教授 鵜飼修がゲスト講師として、6年生に地域診断法を伝える「総合的な学習の時間」の第1回目が行われました。全6回の授業を通して、児童らが自身の暮らす地域について学び、その地域で「未来に継承したい」ものを見つけます。

なお、第7回～第9回は本学地域共生センターの特任研究員や多賀町職員がサポーターとして児童たちのサポートをしました。

第7回以降では、10月29日に実施される大滝まつりでの発表に向け、発表準備のための準備を行いました。

【日程】

- 第1回 6月 1日(水)
KJ法を学ぶ
- 第2回 6月 8日(水)
地域の方を招いた授業
- 第3回 6月14日(火)
実際に地域を歩いてみる
- 第4回 6月21日(火)
町歩きで見つけたことを整理する
- 第5回 6月29日(水)
フィッシュボーン形式の整理手法を使い検討する
- 第6回 7月 6日(水)
活動を振りかえり、何を残していきたいか考える
- 第7回 9月26日(月)
プレゼンテーションについて学ぶ
- 第8回 10月 3日(月)
発表内容を深める・考える
- 第9回 10月 7日(金)
プレゼンの構成を考える

第1回 6月1日(水) KJ法を学ぶ

第1回目はワークショップでの意見とりまとめなどによく使われるKJ法を学び、簡単なKJ法の練習を経て、「自分たちの地域の好きなもの・ところ」について地区ごとのグループに分かれて考えました。

まとめが終わると、グルーピングした付箋にタイトルを付け、それをもとに全体に発表しました。地域の好きなところには、山や川などの自然の他、神社や行事ごとなども多く挙げました。

初めてKJ法を体験した児童らでしたが、出てきた意見をうまく分類し、整理できていました。

次の授業では、地域の方たちをゲストに迎え、さらに自分たちのまちの「よいところ」について知ります。1人3つずつの質問を考えてくるのが宿題に出され、初めての授業を終了しました。



第2回 6月8日(水)

地域の方を招いた授業

「自分たちの地域の好きなもの・ところ」について考え、KJ法で整理を行った1回目の授業を経て、第2回目は地域の方たちをお招きし、自分たちの集落について質問して学んだあと、気がついた「よいところ」や「気になること」を新たにKJ法を使って整

理しました。

地域の方たちには、あらかじめグループごとに質問を準備してきていました。「今と比べて地域の人々の数はどう変わっているか」「地域の一番好きなところや自慢はなんですか?」「昔はどんな遊びが流行っていましたか」「昔から続いていることは何ですか」「これからも受け継いでほしいことは何ですか」など、今のように昔のようすを比較して、地域の特徴を知ろうと工夫しました。

それぞれのグループで聞き取ったことをまとめ、みんなの前で紹介しました。

授業終了後は、地域の方も交えて集落ごとのグループで給食をいただきました。代表者が今日の授業の感想とお礼をスピーチしてくれました。普段聞けないことも知ることができ、新たな発見があった1日でした。



第3回 6月14日(火)

実際に地域を歩いてみる

第3回目は午前中の授業時間を使い、各集落のまちあるきを行いました。

滋賀県立大学から、「地域診断法」の授業を学んだ学生や「近江環人地域再生学座」を受講する院生・社会人受講生がサポーターとして参加、一緒に活動を行いました。

まちあるきコースは前回の授業で話題にあがったスポットを中心に計画、地元の方の案内・説明と、本学からのサポーターの外からの視点を加えて、さらに学習を深めていきました。



学校へ戻ってからはまとめの時間でした。

「〇〇地域はこんなところ」というテーマで、見て教わってきた内容を付箋に書きだして再度情報を整理しました。

現地で実際に見て・聞いて・感じた情報はとても印象に残っているようで、キーワードが次々に付箋に書き出されました。昔あった建物についてや、地域で営まれてきた農業や林業などの産業、そして涼しい風を感じるスポットや景色がキレイな場所についてなど、体験してすぐのみずみずしい内容が挙げられているようでした。

KJ法での整理も慣れ、スムーズに作業が進みます。グループごとに現地で学んだ内容は違い、最後にまとめた内容を紹介して終了しました。



第4回 6月21日（火）

町歩きで見つけたことを整理する

この回から地域診断手法の核心に迫る、地域を学んで整理してきた情報を「分解」して「再構築」する作業が始まりました。

まず鵜飼から今後の作業について噛み砕いたレクチャーを行いました。

これまで積み重ねてきた地域のよいところ・気づいたところを整理した模造紙をもとにして、地域を象徴するキーワードを抽出（KJ法で整理した各項目のタイトルとなったワードを中心に使用、このときはピンクの付箋を使い区別していました）、キーワード同士がどのような内容でつながっているのか改めて考えて、地域を形作っている重要な要素を明らかにしていきます。

大人でも難しいというこの作業、時間がかかりましたが少しずつ糸口を見つけ、何度も付箋を並べ替えながら仕上げていきました。次第に、いろんなつながりが集中した項目が現れ、この再構築の作業を通して、何が集落にとって欠かせない重要な要素なのかが見いだされました。児童らも、一連の作業を通して地域を構成する要素は何なのか気がついてきたようでした。

それぞれが苦戦していましたが途中経過を紹介し合い、別のグループからヒントをもらって進めることができました。

今回は今回見えてきた重要な要素をさらに並べ替え、「フィッシュボーン」の形に整理します。

次の作業を紹介して、各要素をどう考えて整理するか、そして何を「未来に継承したい〇〇地域の□□□□□□□□」として設定するかを考え、まず一人ずつが「フィッシュボーン」の形を考えてくること次回までの宿題になりました。



第5回 6月29日(水)

フィッシュボーン形式の整理手法を使って検討する

いよいよ最終系の姿が見えてきました。これまでの作業を通じて抽出された、集落に欠かせない重要な要素を「フィッシュボーン」の形に並べ替えます。重要な要素が背骨を形成し、あばら骨の部分はそれに付随する別の要素や背景、頭の部分にもっとも大切と考えた付箋が配置され「未来に継承したい〇〇地域の□□□□□□□□□□」というタイトルで示す姿が完成します。

担任の先生の指導もあり、全員が宿題を完成させてきていました。それぞれの考えたフィッシュボーンの要素をもとにしてグループの最終系に取り組みました。

前回の作業によって重要な要素はしぼってありましたが、「頭」の部分の決定には苦戦したようでした。これまで調べてきた地域のことをうまく表し、なぜそれであるか、それがこの地域の大切な象徴である、というものを各項目のつながりから考え出す必要がありました。

要素のつながりを考える中で、各要素の背景は一体何だったのかと、地域の方から聞いた話の断片や、まちあるきで見てきたものの詳しい情報に何度も立ち戻り、意見を交していました。

集落グループごとに進み方は様々で、早くに完成にこぎ着くところもあれば、地域を象徴する要素になかなか思い至らず授業が終了したあとも考え続けているところもありました。

おおむね姿が見えてきたあたりで今回の授業は終了。次回に向けて、再度フィッシュボーンの内容を見直しておくことと、発表でどのように紹介すると伝わるか、紹介内容を考えておくことが宿題となりました。



第6回 7月6日(水)

活動を振りかえり、何を残していきたいか考える

大滝小学校での地域診断、最後の授業となりました。今回は最終まとめとしてみんなの前で発表しあい、お互いに内容を質問し合うことで最終的な見直しを行います。前回の作業からさらに見直しを加えたグループもありました。まず発表準備ができているかを確認、その後、発表時間の目安と質問の視点を共有して発表を行いました。

最初の発表では、「“滝”が中心の方におかれている意味は」や「なぜ“産物”と“子どもも大人もやっていたこと”という項目がつながっているのか」というフィッシュボーンを構成する各要素についての質問や「“山の工夫”にはどういうものがあるか」や「“人とのふれあい”についてどういう内容なのか」「“集いの場”には、どんなものがあつたらいいか」といった、挙がっている要素の具体例、具体的内容について確認する質問がありました。

それぞれが同じ行程経験してきているため、各要素の構成への疑問などの確な質問が考えられているようでした。

一度目の発表と他のグループからの質問を受けて、内容を再度見直し、最終発表を行いました。次の発表では、質問よりも感想や良かった点をほめるコメントが多くなりました。

緊張した面持ちの児童もいましたが、役割分担をして丁寧な発表を行えました。



授業の最後には、鵜飼から最後のコメント。「人」の要素がどのようなものにつながっているか、がフィッシュボーンの中では大切、と地域において「人」の要素の大切さを改めて紹介しました。また地域を象徴する資源、特徴をつかむことが大事であると話し、地域の成り立ちを学ぶことの意味を伝えました。今後も地域とのつながりを大事にしてもらいたい、と子どもたちにメッセージを送り締めくくりました。

第7回 9月26日(月) プレゼンテーションについて学ぶ

地域ごとにまとめた「未来に継承したい〇〇地域の□□□□□□□□」について発表した第6回目の授業から、2か月余りが経った第7回目の授業では、大滝小まつりへの発表に向けて「伝わる伝えかたプレゼンテーションとは何か」について、本学地域共生センターの特任研究員がレクチャーを行いました。



児童たちが第6回目の授業で発表した動画と、良いプレゼンの動画を見比べながら、気付いたことについて意見を出しました。

児童たちは「良いプレゼンは身振り手振りがあった」「自分たちは声が小さかった」「今度は前を見ながら発表したい」など、自分たちの発表を客観的に見つめ、気づきを発表しました。

次回は、発表内容を地区ごとに練り、未来に継承したい要素について深めていきます。

第8回 10月3日(月) 発表内容を深める・考える

大滝小まつりでは、ステージ発表・展示コーナー紹介として、6年生には15分の発表時間が与えられており、一地区あたり5分間の持ち時間があります。5分という発表時間の中で、各地区の継承したい要素がどのような背景から導き出されたのかをまとめ上げるため、第8回では本学地域共生センターの特任研究員や多賀町職員が地区ごとにつき、「この要素

はどのようなつながりで出てきたの」などと問いを投げかけながら児童たちのサポートを行いました。児童たちは事前に準備してきたワークシートとにらめっこしながら

各地域の要素をどのように説明するかを各グループで話し合いました。

次回はグループごとにまとめた内容をスライドに落とし込みます。



第9回 10月7日(金) プレゼンの構成を考える

前回までに考えてきたプレゼンの内容を踏まえ、ワークシートに沿ってプレゼンテーション形式の構成・デザイン・原稿に落とし込みます。

前回の授業から構成を変えるグループ、なかなか先に進まないグループもありましたが、教師や多賀町職員、本学研究員のサポートのおかげで児童たちも要領を得て、授業が終わるころには概ね構成を終えていました。

本学のサポートはここまで。児童たちは10月29日の発表に向け、展示の準備や発表練習などを重ねていきます。集大成である大滝小まつりでの発表が待ち遠しい限りです。

